

2019年度 通信制高等学校第三者評価

評 価 報 告 書

学校法人 国際学園

[星槎国際高等学校]

[通信制課程]

2019年12月25日

通信制高等学校評価研究会

提出された各種資料及び2019年10月10、17日に実施した現地調査の結果、貴校通信制課程の評価は次の通りとなりました。

学校概要

「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。」を建学の精神として、1985年に学校法人国際学園を設立し、1999年北海道芦別市に星槎国際高等学校を開校した。

以降、「困難な場面において、相手を思い、笑顔と勇気を持って立ち向かう強い心の育成。」を教育理念として教育活動を展開し、令和元年8月現在、在籍者数5,224人、24の学習センター（面接指導施設）と35の技能教育施設を持つ広域通信制高校として高い成果を上げている。

特に、星槎グループが長年取り組んできた「個を尊重する」教育は、現在様々な学校で実践されているインクルーシブ教育を先取りする教育活動であり、様々な試行錯誤を通して、独自の手法を生み出している。

中でも、付帯教育事業として展開している「適応指導教室」は個別の教育的ニーズを抱えている中学生への支援の場として大きな成果を上げている。

また、生徒個々の興味関心や能力を伸ばすための取り組みとして、プロジェクト学習、インターンシップ、芦別における集中スクーリングなどを行っており、星槎オリンピックなどでその成果を発表している。

また、女子サッカー部が「全日本高等学校女子サッカー選手権大会」で全国優勝するなど部活動にも力を入れている。

学校の特色としては、

- ①人との繋がりを学び、相手を認め自分の役割を理解し、社会に巣立って行く力を養う
「共通理解教育」
- ②「3年間まるごと進路指導」という観点で実践している、個々の特性を尊重する多様な学習プログラムである「特別な支援」の提供
- ③コミュニケーション能力や生活習慣の確立を学習するとともに、「自らの力で課題を解決する」ことや「必要な場合は他者の支援を要請する」といった、自立に向けての基本的事項を総合的・体験的に実践する「SST（社会技術トレーニング）」があげられる。

総合評価

適

すべての観点において満足できる取り組みを行っているとは評価できる。
特に、個別生徒への支援体制と、それを支える教職員の配置と研修体制は高く評価できる。

また、生徒の能力を伸ばすためのプロジェクト学習や星槎オリンピックなども評価できる取り組みである。

特に、SAAB (Seisa Asia Africa Bridge) という教育活動で「アジアとアフリカの懸け橋に」をコンセプトに行っている異文化交流は他にない取り組みとして高く評価できる。

今後は、生徒個々が持つ能力を一層伸長・深化させる教育活動の展開を期待したい。